

彌 生 日増しに伸びる陽光に、少しづつ暖

められた地表は、朝に夕べに、ボンヤリと

静かな靄を立てて、宵空にかゝる細い月も、

心持ち赤味がかつて来た様だ。餘寒の未だ

に厳しい内にも、一雨一雨と、何とはなし

に春の漂ひが身近かに感じられて来る。やがて彼岸も過ぎて、彌生の候、木々の若芽は萌へ出でる準備に忙がしい。

北から西へ 長らく中天を飾つて居たカシオペヤ、アンドロメダが、早や西北角に追ひ込まれて、其の左手には三角と牡羊が淋しそうに並んで居る。

南天から天頂へ オリオン、兎、鳩と、少し西へ廻つて、眞南には大犬、其の東には、一角獣が、小さな星で、怪げな圖體を作り上げて居る。南の地平線にはアルゴ船が、浮きつ、沈みつして居る。先月中天に在つたペルセウス、牡牛、駁者等は、共に少し座を亡つて、双子の仲良し二星が先づ天頂に居る。小犬は未だ相當良好位置だ。

東天から北へ 南寄りには、今度は海蛇が、鎌首を擡げて居るが、 $120^{\circ}$ に達する長身の尻尾は未だ東の地平線に沈めたまゝである。蟹、獅子が、いよいよ本舞臺に昇つて来た。乙女もやがて花開く四月を待つて居るかの様に、地平線に少し姿を見せ、其の南には、烏が名に背いてキラキラと 瀟氣を破つて来た。巨光を放つアクトウルスを持つた牧夫も、乙女と肩を並べて、春の耕作にやつて来るらしい。東北には全貌を顯はした北斗が、特に目を引く様になつた。小熊の指針も東に向いた。いよいよ春が近づいて来る。

太 陽 月始めには“水瓶”座の中央、月末には“魚座”の中央へと移る。簡単に表記すれば

| 日時 | 赤経       | 赤緯      | 晝間    | 夜間    | 夕刻 | 薄明終焉時刻 |
|----|----------|---------|-------|-------|----|--------|
|    | 時 分 秒    |         | 時間 分  | 時間 分  |    | 時 分    |
| 1  | 22 44 19 | - 8° 0' | 11 25 | 12 35 |    | 19 17  |
| 6  | 23 2 59  | 6 6     | 11 36 | 12 24 |    | 19 21  |
| 11 | 23 21 29 | 4 9     | 11 47 | 12 13 |    | 19 25  |
| 16 | 23 39 50 | 2 11    | 11 58 | 12 2  |    | 19 29  |
| 21 | 23 58 6  | 0 12    | 12 9  | 11 51 |    | 19 33  |
| 26 | 0 16 19  | + 1 46  | 12 20 | 11 40 |    | 19 37  |
| 31 | 0 34 30  | + 3 43  | 12 31 | 11 29 |    | 19 52  |

1939 年

## 3 月 の 天 象

21日にはいよいよ赤道を横切つて、北半球に移ると同時に、春分點をも過ぎて、赤緯は0時に入る。従つて日射も下旬頃から急に増して来る様に思はれる。晝夜平分は17日、久しく長かつた夜間も、日本では此の頃から晝の方が長くなる。其の代り、日没も遅くなり、春先に西へ移つた星座は、目に見へて早く西へ進む様に感じられるのが星好きには淋しい。秋頃とは、二倍位早く思はれる。観測もそろそろ寒氣から開放されかけて來た。然し、概して晴天は寒い。

月 月齡 10.1 の月が“双子”座から始まり、一周終つて“獅子”座に終る。其の間の諸相を略示すれば（月齡、視直徑は日本中央標準時 21<sup>h</sup> の値）

| 日付 | 月齡   | 視直徑                             | 時刻              | 星座  | 記事  |
|----|------|---------------------------------|-----------------|-----|-----|
| 4  | 13.1 | 33 <sup>h</sup> 15 <sup>m</sup> | 20 <sup>h</sup> | 獅 子 | 最 近 |
| 6  | 15.1 | 33 12                           | 3               | 獅 子 | 滿 月 |
| 13 | 22.1 | 30 22                           | 7               | 蛇遣ひ | 下 弦 |
| 17 | 26.1 | 29 28                           | 0               | 山 羊 | 最 遠 |
| 21 | 0.4  | 30 2                            | 11              | 魚   | 新 月 |
| 28 | 7.4  | 31 56                           | 21              | 双 子 | 上 弦 |

である。闇夜の無いのは4—6日、反對に月の無いのは20—22日である。西空に見へるのは、割合に早くて、月齡 2.4 の月が23日に見られる位だらうが、春先は見易いから、或は其の前日からでも見へるかも知れない。所謂二日月の見られるのは春先に最も多い。

水 星 “水瓶”座の中部から、“魚”座の中部へ移る。宵の星である。其の間17日は東方最大離隔に達し、夕空に見易い。これも今年中の最好期だらう。視直徑は約 7.<sup>5</sup>, 24日には停留し、以後逆行に向つて内合に近づく。中旬頃シーイングの良い時を見計らつて、7cm 100×位で見ると面白い。（先月の記事中19日に内合は外合の誤りでした。誤記を訂正します。）

金 星 暁の星である。“射手”座の東端から、“山羊”座の東端へ移る。次第に遠くなるが、未だ早起きには都合良い。視直徑は 19.<sup>5</sup>—14.<sup>5</sup>, 光度は —3.8—3.6 へと減少中。

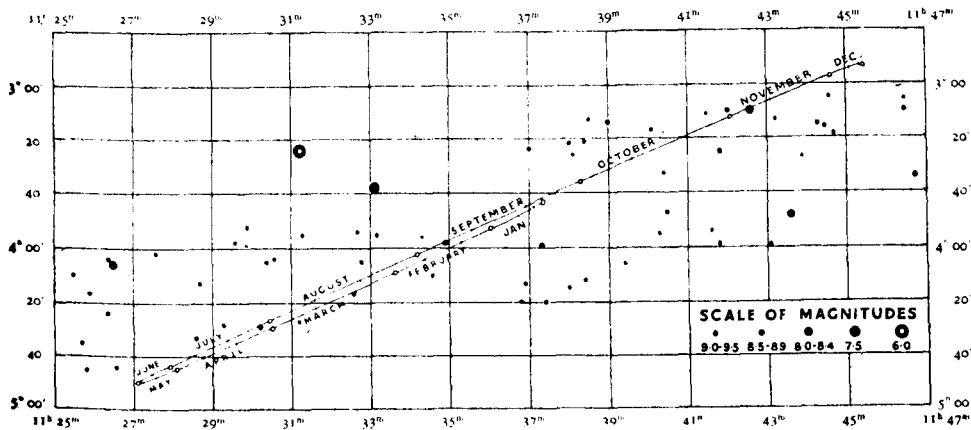
火 星 暁天の星である。“蛇遣ひ”座の南部から、“射手”座の西端に移る。最南に偏して居るが、視直徑は 6.8—8.6 へ、光度は +1.0—+0.4 へと増す。

**木 星** “水瓶”座と“魚”座の境目に居るが、6日には合となり、全く見られない。

**土 星** “魚”座の中部に居るが、これも太陽に近くて見難い。

**天王星** “羊”座の中部に見るが、これも太陽に次第に近づき、淡いだけに、月末には見難くなる。

**海王星** “獅子”座の東端に居る。13日には對衝に来て、最も見頃である。場所は $\tau$ 獅子星の東、89獅子の一寸南に居る。次に本年中の経路を圖示して置く。本月の遊星は概して見甲斐の無い方だが、其の中で最内側の水星と最外側の（冥王星は一寸見られそうも無いから）海王星のみ好位置と云へやう。



**ユリウス日** 3月1日 21時が 2429324.0 に當る。

**黄道光** 夕空に最も明るい頃である。新しく觀測し始めるのに好適だ。現今、黄道光の觀測上に最も重大な問題は其の外形や光度の變動を適確に證明することである。之れがためには相互に離れてゐる2人以上の觀測者が嚴密な同時觀測をやることが望ましい。必要な星圖は無代で本會の瀬戸黄道光觀測所から配布される。詳細な觀測方法については課長荒木健兒氏に問ひ合はされし。

**彗 星** コブ彗星が3月12日近日點通過の豫定であるが、餘程の器械でなければ到底見られそうにない。又本年最初のベルチャ彗星が毎夜日没後の西天に見えてゐるが、位置は本會急報を見られたし。